

はじめの一步

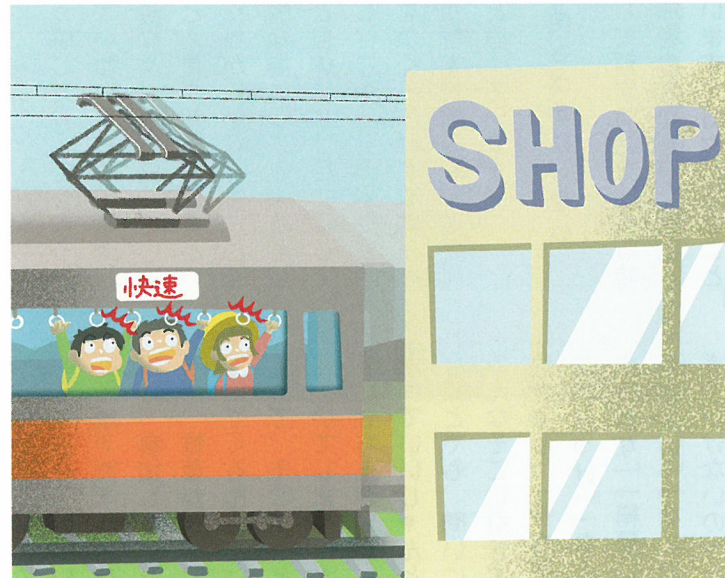
障害のある人を理解する

第7回 青年の価値意識を大切に



全障研茨城支部
船橋秀彦

ふなばし ひでひこ / 1955年生まれ。特別支援学校に長年勤めた後、福祉型専攻科「シャンティつくば」を立ち上げる。共著に『はくのおじさんは、ハンセン病—平沢保治物語—』(全障研茨城支部)がある



私の悩み「こっちの方が良いのでは」
仲間(障害のある青年。以下同様)の母親の話です。事業所の所外活動で、数人の仲間が洋服店に行ったのですが、遠回りの計画で交通費も高くついたそうです。スタッフは「仲間が考えたことだから」と言うのですが、近いルートを教えてくれればよかったのに、とのこと。

失敗から学ぶ

私も福祉制度を利用した知的障害者の18歳以降の学びの場・福祉型専攻科を運営し、学生(利用者を「学生」と呼んでいます)と活動していますので、この場合はスタッフの考えに共感します。

仲間が、自分で考えた計画を実行することは、大事です。電車で隣の駅のショッピングモールへ行くはずが、「快速」に乗ってしまい、途中駅から戻って行き直した仲間たち。牛久大仏へ行く計画では、待ってもバスが来ない事態に(休日運行するバスだったので)。失敗だらけですが、仲間は、それ以降乗る電車は「快速」かどうか気をつけ、バスの時刻表には平日用と休日用があるのを知りました。失敗から学ぶ点で、仲間が立て

た計画は大事にしたいものです。

青年の価値意識

「遠回り」の計画には、「失敗から学ぶ」以上の価値があります。スタッフに尋ねたところ、仲間には乗りたい電車(路線)があり、その路線を経由して洋服店に行ったそうです。「乗りたい電車」の仲間の思い(価値意識)を大事にしたのです。価値意識は、青年期の学びの本質にかかわります。

青年期の学びのキーワードは「自分さがし・自分づくり」です。しかし、自分とは何でしょうか。実は自分(らしさ)とは、もともとあるものではなく、自分をみつめ、自分を意識する活動の連続のなかで次第に自覚していくものと思えます。それは、仲間自身が自立(親離れ)する過程と重なります。ですから、青年期には「自分さがし」の活動を組織することが大事です。

たとえば、美術館へ行って作品を見た後、「自分で気に入った作品」を紹介する。植物園で、「気に入った植物」を撮ってコメントをつける。短歌、詩、絵などは、自分を表現する大事な活動です。自分探しの活動を仲間と続けるなかで、

親やスタッフに左右されない(言葉を換えれば、言うことを聞かない)「自分は〇〇をやりたい」との強い価値意識を持ち、それが次第に統一的な価値観として形成され、周囲も「その人らしさ」として認めることで、大人としての対等な関係が築かれるように思えます。

つまらないと思えるものでも

私は古書を収集するのが好きなのですが、パートナー(妻)には理解されません。価値意識は一人ひとりちがいで、自分には価値があっても、他の人にはそうではないことがあります。長い物干し竿が好きで150本も集めていた青年Yさんがいました。そんな大切なものならば、と展示会を開催しました。多くの方が来場し、Yさんらしさとして社会的にも承認されました。なにより、Yさんの不安定さ(怒る)が消え、「笑うようになり、怒らなくなった」(本人談)のです。

他の人にはつまらないと思えることも、自分でやると決めたら支援を受けることができ、自分が興味をもったことに挑戦でき、自分の手で作れなくても、支援を通じて自分が好きなことができる、その起点が価値意識です。

「支え合いの自立」ということ

従来の自立観では「一人でできる」が強調され、自分で買物ができ、調理ができ、洗濯ができ…と多くの「できる」の獲得がめざされました。支援者は、一つでも多くのスキルを身につけさせようとしています。しかしそこでの支援は訓練的になり、いつのまにか受け身的な、指示待ち人間に…。なにより、「できる」世界は限定的です。

「支え合いの自立」では、支援を受け支え合いながら生きることが前提です。人は生まれて以来、人との依存的な関係のなかで生きています。それは支え合う関係です。こうした「支え合いの自立」観に立つと、「できない」ことでも実現の可能性ががあります。「できるか・できないか」の前に、「やりたいこと」があり、その基には「価値意識」があります。やりたいことを支え合いによって実現していけば、障害者の世界は限りなく広がります。

参考 拙論「青年期教育から問う知的障害者教育と『学び』の本質的課題—18歳以降の学びの場(福祉型専攻科)の実践から—」『SNEジャーナル』第30巻、2024年10月(刊行予定)

今月のはじめの一步 『その人らしさとはなにか』

あなたが普段関わっている障害のある人の価値意識はどんなものでしょうか。一人ひとり独自の価値意識に目を向けて考え合ってみませんか